

○2番（伊藤義男）（登壇） 自参改革クラブ、参政党の伊藤義男です。通告に従い質問いたします。

初めに、なりすまし投票についてです。

期日前投票や当日投票において投票券や本人確認書類を持参せずとも投票できる手ぶら投票が認められていることについて、市民からは、これでは不正の温床になるのではないかとといった不安の声が寄せられています。現行法においては選挙人名簿との照合により、投票資格を確認することになっていることは十分承知しております。しかし、市民の方からは、他人の氏名、住所、生年月日を知っていれば、なりすまし投票が成立してしまうのではないかという具体的な不安の声も寄せられています。

そこで、伺います。

市として、こうしたなりすまし投票を含め、実際に想定される不正の手口にはどのようなものがあると認識しているのか。また、それらを防ぐためにどのような運用を行っているのか。その運用で、今後、なりすましの不正はなくなるのか。あわせて、制度の安全性や不正防止の仕組みを市民が理解できるよう、どのように説明責任を果たし、不安を解消していくのか。さらに、制度改善の必要性について、国へ要望を行うお考えがあるのか、御見解をお示ください。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。藤田選挙管理委員会事務局長。

○選挙管理委員会事務局長（藤田和久）（登壇） 伊藤義男議員さんの御質問にお答えいたします。

なりすまし投票についてでございます。

まず、実際に想定される不正の手口及びそれらを防ぐための運用についてお答えいたします。

実際に想定される不正の手口としては、第三者の入場券を持ち込んでの詐欺行為等が想定されます。期日前投票は、公職選挙法の規定により宣誓書の提出が必要となっており、投票所入場券裏面の宣誓書に記載していただいた氏名、住所、生年月日を選挙人名簿と照合した上で、受付処理を行います。当日投票は、宣誓書の記載は不要ですが、入場券を持参していない場合は、選挙人の氏名、住所、生年月日を口述または用紙へ記載していただくか、もしくは身分証明書の提示により本人確認を行った上で、受付処理を行います。いずれの場合でも、不正を未然に防ぐために、本人確認に疑義が生じた場合は、再度、選挙人に確認するなど、厳格に対応することで、なりすまし投票等の未然防止につながるものと考えております。

次に、制度の安全性や不正防止の仕組みに関する説明責任についてでございます。

市民の不安を解消し、信頼できる制度を維持していくために、不正行為を決して許すことなく、未然に防ぐための風土づくりに努めていく必要があると考えており、詐偽投票をはじめとする不正を抑止するための投票所内への掲示やホームページでの周知を引き続き行うほか、事務従事者に対する対処方法の研修や警察署との連携強化、選挙期間中のみならず、常時、啓発に取り組んでまいります。

次に、制度改善の必要性に係る国への要望についてでございます。

本市における近年の選挙において、現在の運用で特段の問題が発生していないことから、現時点では、制度改善を求める国等への要望は考えておりませんが、他自治体では、なりすましなどの詐偽投票も散見されますことから、法律や制度改正等も注視し、適宜適切に対応してまいります。

○議長（田窪秀道）　伊藤義男議員。

○２番（伊藤義男）（登壇）　選挙で本当に重要なのは、投票日当日に投票へ行くという意識改革です。市には、利便性の向上だけでなく、投票の意義を伝え、投票を促す啓発や教育を強化するよう要望し、次の質問です。